

④県立高校魅力化に向けての具体策について

次に、県立高校魅力化についてお尋ねいたします。

県教育委員会におかれては、平成19年10月策定の県立高等学校再編整備等基本計画に基づいて、学校規模の適正化や特色ある学校づくりなど、教育環境の整備を進められてこられたと承知しております。

しかし、本計画終了後の令和元年度以降も、さらなる少子化の進行による生徒数の減少等により、郡部の県立高校を中心に、定員割れが一層拡大する状況が進行していることは周知のとおりであります。

過去5年間を見ると、40人以上の定員割れが続いている高校は、14校あります。その多くは、各地域の中核に立地し、長い歴史と伝統と数多くの同窓生を有し、地元住民の皆様に長らく愛されてきた各地域を代表する教育機関であります。

であればこそ、それぞれの地元の同僚議員をはじめ、首長さんや住民の方々のお話を伺うたびに、地元高校の大幅な定員割れに対して、地域社会を形成する重要な要素の一つである高校が、今後、果たしていかなる形で維持されるのか、大変心配されております。

教育委員会がこれまで取り組んでこられた再編整備を通じて、郡部にも一定規模の高校を存続させ、子供たちが切磋琢磨し、社会性を身につけていくための教育環境は整備されてきたものと受け止めております。

さらに、この再編整備の成果と課題を踏まえ、令和3年3月、県立高等学校あり方検討会会長から教育長に提出された、県立高等学校のあり方と今後の方向性についての提言を受けて、県教育委員会では、魅力ある学校づくりに向けた14の取組を推進しておられます。

山鹿市においても、本年度から、鹿本高校が文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールの指定を受け、鹿本高校産官学連携シルクプロジェクトや理系、文系の枠を超えた探求的な学びに取り組むなど、山鹿市内の県立高校を牽引する形で魅力づくりを推進されていると伺っております。

また、この9月には、全ての県立高校のスクールミッションの素案が公表されましたが、今後、この素案に地域の要望や意見等もしっかりと酌み取っていただき、磨き上げを行っていただきたいと願っております。

私は、学校の魅力づくりとは、まず、何といたしましてもそれぞれの

学校に在籍している生徒が、そしてその保護者が、子供たちが通っている高校に魅力を感じられるかどうかにかかっていると考えます。それが実現できれば、高校進学を目指す中学生とその保護者にも必ずや理解され、進路を選択する際の重要な要素になるに違いありません。

最終的なスクールミッション策定に向けては、このような視点も踏まえ、県立高校の魅力化の具体的な方向性を見据えながら進めていくべきであると考えます。

そこで、教育委員会として、県立高校の魅力化に向けた現在の取組の状況と、今後、スクールミッション策定を含め、その成果を上げていくためにどのように取り組んでいくお考えか、教育長にお尋ねいたします。

〔教育長古閑陽一君登壇〕

～答弁～

◎教育長（古閑陽一君） まず、県立高校の魅力化に向けた現在の取組状況についてお答えをします。

県立高校の魅力化につきましては、3月に示された県立高等学校

あり方検討会の提言を踏まえ、大きく次の3点について取組を進めております。

1点目は、新たな学科等の設置についてです。

今年度は、議員御紹介の鹿本高校のほかに、菊池高校で未来探究コースと地域探究コースを新たに設置いたしました。また、八代工業高校では、県内産業界と知事部局、県教育委員会が一体となって、最先端デジタル技術を取り入れた次世代の産業人材を育成する国のマイスター・ハイスクール事業に取り組んでおります。

2点目は、県立高校が相互に連携して取り組む県立高校 OneTeam プロジェクト事業であります。

これは、複数の高校による合同学習会の開催や地元商店街等の地域課題の解決に向けた探究的な学びなど、様々な学科を有する県立高校の強みを生かし、地域とも連携しながら取組を進めております。

3点目は、地域の期待に応える魅力ある学校づくりです。

国のCOREハイスクール・ネットワーク事業では、第一高校と教育センターを主たる配信拠点として、小国、牛深、球磨中央の各高校をオンラインでつなぎ、遠隔授業等による教育の充実を図る準備を始めております。

また、県によるスーパーグローバルハイスクール事業では、今年度、対象校に甲佐高校など3校を新たに加え、全9校で、グローバルな視点を持ちつつ、地域社会の発展に貢献する人材の育成を目指し、地元自治体や企業などと一体となった教育活動を実践しております。

次に、スクール・ミッションの策定を含め、今後の取組についてお答えをいたします。

本年4月以降、全ての県立高校の教育理念や今後の魅力化の方向性などを改めて明確化するため、スクール・ミッションの策定に取り組んでおり、今月、その素案について公表したところであります。

これから年度末に向けて、広く御意見等を伺いながら、スクール・ミッションの策定を進めていきます。あわせて、各学校においては、入学から卒業までの教育活動や資質、能力の育成内容等を定めたスクールポリシーを策定してまいります。

また、引き続き、社会や地域のニーズに応えた特色ある新たな学科等の設置に向けた検討を進めてまいります。

具体的には、県立八代中学校及び八代高校においては、国際バカロレア教育の認定に向け、準備委員会を設置し、庁内関係課や文部科学省などと連携しながら作業を進めていきます。また、高森高校におい

ては、先日、高森町や株式会社コアミックスと締結した協定に基づきまして、漫画関連学科の設置に向け、具体的な検討を行ってまいります。

さらには、熊本地震や令和2年7月豪雨災害の教訓を生かすための防災の学びの導入や、県立高校のフロントランナーとして、カリキュラム開発や実践教育を行うイノベーションハイスクールなど、各県立高校が特色ある学びのさらなる推進に向けた県独自の指定校についても検討しているところであります。

今後も、新しい時代に対応した、全ての高校生が夢に挑戦できる魅力ある県立高校の実現に向け、保護者や地元自治体、企業、団体、そして知事部局ともこれまで以上に緊密に連携しながら、地域とともに全庁一丸となって取組を進めてまいります。

〔渕上陽一君登壇〕

～切り返し～

◆（渕上陽一君） 県立高校の魅力化に向けて、確実に取り組んでいただきたいと思います。

魅力とは、人の心を引きつけ、夢中にさせる力のことです。せっか

くつくられたものが、絵に描いた餅にならないように、常に生徒や保護者をはじめとする地域の声に耳を傾けながら、自己並びに他者による客観的な評価を繰り返し行いながら、おのずと生徒が集まってくる魅力ある県立高校にしていただくことを期待しております。